

I K U S E I

い く せ い

2008 46



社団法人 競走馬育成協会

CONTENTS

■ 卷頭言

○ 調教セールについて考える

木口 明信 (日本中央競馬会 馬事部 生産育成対策室長) ①

■ 特 集

○ 育成技術者の確保に関する問題について ②

■ 行 事

○ 平成20年度通常総会開催 ④

○ 平成20年度臨時総会開催 ⑥

○ 平成20年度育成等に関する懇談会 ⑦

■ 事 業

○ 育成技術表彰事業のあらまし ⑧

【育成技術者表彰会員一覧】

トピックス ウイナーズサークルにおける育成表彰の実現

○ 競馬関連機材等有効活用事業 ⑬

○ 育成技術講習会 ⑬

○ 軽種馬経営高度化指導研修事業(生産育成技術者海外派遣事業) ⑭

○ ご存知ですか ⑯

① 軽種馬生産育成強化対策事業(利子補給事業)

② 畜産環境整備リース事業



題字 会長 小沢一郎
表紙写真 内藤律子

調教セールについて 考える



日本中央競馬会 馬事部 生産育成対策室長
木口 明信

近年、わが国の調教セールをみていて気になるところがある。それは、調教セールの1ハロン走行タイムが以前よりも速くなってきたことである。もちろん、調教技術の向上や冬季調教施設の充実によって可能になった部分もあろう。しかしながら、ムチを過度に使用するなど、若馬に対して無理にスピードを要求した結果の早いタイムも往々にして見られる。

体の出来ていない若馬にスピードを求める弊害として、ソエなどの運動器疾患を抱えた状態で無理をする結果、かえってデビューが遅れることがしばしばあるように思う。このことは、購買者にとって大きなマイナスであり、さらに、ムチの過使用は馬の精神面に悪影響を与え、能力以上に走らすことに起因する肉体への過負荷も好ましいことではないと思う。

また、最近では購買者の目も肥えてきているのではないかと思う。つまり、瞬間のスピードのみにだまされられない冷静な目で馬の走行を評価できるようになってきているということである。極端な言い方をすると、調教が十分なされていない馬でもジョッキーが騎乗して追えば、短い距離であれば、かなり早いタイムで走行することができるがわかってきたのである。

競走馬のマーケットにおいて、2歳調教セールは、「競走馬として、できるだけリスクの少ない馬を購入したい」という購買者のニーズに合ったセールとして位置づけられ、今後とも健全に発展していくことが望まれている。しかしながら、「販売しやすくするため、若馬に無理に早いタイムを出させ、販売できれば後は知らないセール」という意識が広がったら、今後の調教セール発展も危ぶまれるものと懸念している。

米国では、ピンフッキング業が定着しており、安く仕入れた馬をスピードという付加価値をつけて調教セールで売却するのみならず、近年では血統的資質の高い馬を調教セールで高額で売却することが普通に実施されている。一方、英国ではニューマーケット競馬場の芝の特設コースをしっかりと走らせるが、米国のように極端に早いタイムで走行しないのが特徴である。また、馬場状態によって大きくタイムが異なるのでタイムも公表していない。従来は下級馬のセールだったが、2006年の1000ギニーを勝ったスペシオーサなどの調教セール出身の活躍馬輩出を機に、以前に比べて注目度が上がっている。このように、購買者にとって調教セールは現在も欧米で非常に注目を集めているが、今年になって、米国では調教セールのあり方について見直す動きがある。

The Blood Horse 誌(3月15日号)には「急仕上げとも思える厳しい調教を若馬に強いることは難しい側面が多いので、アナボリックステロイドに頼っていた

のが米国の現状であること。米国のセールにおいて今年からアナボリックステロイドを禁止することになったことから、今後、アナボリック使用に関して売り手と買い手にいっそうの厳密な姿勢がもとめられる」とあった。また、同誌(9月13日号)には、「来年度のパレット、ファシグティプトン、キーンランドおよびオカラの調教セールにおいて、安全性と馬へ健康の観点からムチの使用制限と歯鉄の禁止が発表された。」ともあった。若い時期の調教セールにおいて極端に早いタイムを出すことがどれほど意味のあることか、つまり、調教セールで速く走れることと競馬にむけて準備ができていないのは全く意味合いが違うということも米国でも議論されていることをあらためて認識した。

今後、競走馬としての将来を考えつつ、多くの購買者をひきつけるような調教セールを実施していくためには、どのような方向に進めばよいであろうか。考えられることのひとつとして購買者に与える「安心感」がある。調教セールにおいては、馬がどれだけの一瞬のスピードをもっているかを示すよりも、どれだけ調教を積んできているのかが示せるほうが、リスクの少ない馬を求めようとする購買者に安心感を与えることができるのではないだろうか。例えば、1ハロンのみ極端に早いタイムで走行するのではなく、ある程度の平均スピードで3ハロン程度を長めに走行することもひとつの方法であろう。つまり、競走馬としての調教の延長上で騎乗供覧をおこなうことが重要と思うのである。セールで馬を売って終わりなのではなく、その後競走馬としての調教にスムーズに移行できるものでなければ、購買者の信頼を失うのではなからうか。もちろん、調教後の跛行などリスクのあるのが調教セールの難しいところでもあることも上場者・購買者ともに十分理解する必要がある。したがって、リスク回避のための情報開示室(レポジトリールーム)のさらなる活用推進も重要であろう。現在、すべての主催者でX線写真等の提出がなされているにも関わらず、活用頻度が低いように思われる。会場への獣医師配置等も含めて利用しやすい主催者の環境づくりが必要である。

わが国における規模の大きい2歳調教セールは、1997年に開始されたプレミアセールが最初であり、まだ10年程度の浅い歴史しかない。ということは、まだ大きく変貌を遂げる可能性も秘めているともいえる。今後は、調教セール=売れ残り馬処分セリという悪いイメージから脱却していくことが必要である。そのためには、ピンフッキング業者の健全な発展が不可欠であり、上記のような調教セールに対する意識改革が必要であろう。今後、購買者に与える「安心感」をキーワードに、次年度以降の調教セール復調を期待したい。

育成技術者の確保に関する問題について

育成業界の近年の懸案事項となっている人材不足の現状と、その対応策については昨年の「いくせい」でもお知らせしたとおり、19年に行われた当協会とJRAとの「育成等に関する懇談会」でも意見交換がなされ、JRAからは「馬関係者の人材養成は競馬サークル全体の問題として共に危機感を持って取り組むべき」との発言があり、7月4日に行われた今年度の「育成等に関する懇談会」では、JRA生産育成対策室よりこの問題について、若者の雇用事情及び牧場の実情などから見た中間報告がありました。

1. 若者の雇用事情の概況について (厚生労働省等の統計より)

(1) 高校生・大学生の就職内定率は平成13年(2001年)以降自動車産業や電機産業などの増産体制や少子化を見越した企業のリクルート活動の活発化から上昇に転じており、高校新卒者は売り手市場に向かっている。

少子化により若者層が減っているのはもちろんだが、他業種は少子化への素早い対応を行い積極的な人材確保を進めてきた。馬産地のハローワークでは地場産業である牧場の人手不足に強い危機感を抱いている。浦河町では209名の求人に対し62名の応募しかなく、なかでも24歳以下の応募が5名と若者の応募が少なかった。



(2) 15歳から24歳の完全失業率は平成15年(2003年)には10.1%にまで悪化したが平成18年には8.0%までに回復している。有効求人倍率は平成15年に1.0(求職者ひとり当たり何件の求人があるか)を確保し、その後上昇に転じ平成18年(2006年)にはバブル期以来の1.64の水準に達している。

企業による若者の募集は年々増加し、完全なる売り手市場となっており、そのため待遇のよい職場を求める環境になっていると思われる。



(3) フリーター数(15歳~34歳男性・未婚女性)のうちパート等で働くか希望する者も平成15年(2003年)をピークに減少傾向である。



若者の雇用状況は、景気の回復傾向や少子化による雇用者のリクルート活動の活発化から好転しており、現在は売り手市場となっている。しかし北海道の馬産地では、求人数は多いものの求職者が少ない実態となっている。

2. 育成牧場の実態と取組み

J R Aと当協会でご各牧場を訪ねヒアリングを行いまとめたところ、次のような意見であった。

(1) 現状と今後の見通し

概ね現状では人手不足や退職者の補充に苦勞して、将来的に少子化や競馬人気低迷により困難になるとの悲觀的な見方をしていいる。

(2) 採用方法について

口コミ、紹介などの独自のルートで求人を行っている例が多いが、全国の農業高校の進路担当者や大学馬術部へ直接働きかけている例も多い。

雑誌広告などの効果は落ちていいるようで、ハローワークやホームページで求人をするだけでなく積極的に勧誘活動をしていいる実態が見られる。

(3) 今後の対応策

- ① 牧場を支える若年層の労働力の参入拡大策
 - ・ 牧場で最も努力されているのがこの問題で各牧場だけではなく業界全体としての取組みが大事
 - ・ 農業高校と協力して生徒への競馬産業への興味喚起
 - ・ 中学生の職業体験へ牧場就業の売込み
 - ・ J R A乗馬センター等で牧場就業のイメージアップを図る
 - ・ 乗馬人口の拡大
 - ・ 牧場経営者による若者への宣伝機会の創設
 - ・ 新卒者の親に対する牧場への否定的な印象の払拭
- ② 労働者の離職防止策について
 - ・ せつかく採用をしてもそれをつなぎとめておくような各牧場での施策も大切
 - ・ 牧場従業員の労働意欲を高める給与・福利厚生・海外研修等の整備
 - ・ 待遇だけではなく従業員の心のケアをしておく必要
- ③ J R A競馬学校既務員課程の見直し
 - ・ プレーキング繁忙期である10～1月の募集時期の見直し

などの意見があった。

J R Aでは若者の競馬産業就業へのP Rの一環として、優駿8月号誌上でB T C育成調教技術者養成研修レポートを企画し、案内を行っている。

また、グリーンチャンネルでB T C研修生に関する番組(8.21～8.22放映「ダービー馬を育てよう」)を放映するなど、競馬に興味がある若年層への積極的な広報を行っている。

問題解決に向けて今後の方向性としては以下のことが考えられる。

① サークル内における問題意識の共有

生産者・育成者等などの牧場では問題意識があるが、調教師・馬主では人手不足に対する問題意識が低い。様々な機会を通じて人材不足の共通認識を共有し、対策を考える必要がある。

② 馬や競馬人気の回復

人材不足は牧場の労働環境だけの問題だけではなく、そもそも馬や競馬に対する世間の関心が低くなっていることにも原因がある。競馬ファンの減少にもつながるだけに、単なる人手不足問題に終わらせるのではなくサークル全体で考える対策を講じる必要がある。

③ 様々な層からの意見の聴取

この問題について調査が始まったばかりであり、サンプルも少ないため、当事者の一面的な見方だけではなく、関係者の様々な意見を集めて集約する必要がある。そのなかから様々なアイデアを抽出し実行していく必要がある。

当協会はこの問題について、育成者の意見集約を図り、J R Aに協力して解決に積極的に取り組んでまいります。そのためには会員相互の理解を深めることはもちろんのこと、協会組織の拡充強化のため、会員皆様には当会の業務運営に一層のご理解ご協力をお願い申し上げます。



第2回理事会でも人材確保について話し合われた。

平成20年度 通常総会開催

平成20年度通常総会は、平成20年2月19日午後2時15分から、日本中央競馬会本部ビル7階大会議室において、多数の来賓の出席を得て開催されました。

小沢会長から、「昨年は馬インフルエンザの発生や牝馬のダービー制覇など記憶に残る1年であった。競走馬の才能を開花させる育成者の役割は重要かつ不可欠で今後はその役割の重要性を周知し技術を高め経営の安定を図る必要がある。引き続き農林水産省、日本中央競馬会をはじめとして関係各位のご指導をお願いしたい。」と育成者の役割の重要性を強調した挨拶があった。

次いで、来賓の農林水産省競馬監督課豊田育郎課長及び日本中央競馬会水野豊香理事から祝辞を頂いた。

議長に荻野豊氏が選任されて議事に入り、次の議案が審議された。

-
- 第1号議案 平成19年度事業報告書・収支決算書・財務諸表について
 - 第2号議案 平成20年度事業計画書・収支予算書について
 - 第3号議案 平成20年度会費等の額並びに徴収の方法について
 - 第4号議案 監事の補欠選任について
-

第1号議案～第3号議案は、原案のとおり承認され、第4号議案は安達正奉氏、倉澤景晴氏が選任された（「新役員の紹介」を参照ください。）

通常総会で承認された平成20年度の事業計画は、育成者の役割の重要性について積極的にPRを行うことを前文にした事業計画です。

平成20年度事業実施計画

日本競馬界の念願の「パートI国」入りのなか、世界各国の競馬先進国で、日本の競走馬が大活躍をしている。この要因として、血統の充実はもちろんであるが、それを開花させる育成技術の向上に負うところも多く、競走馬育成業界、本協会会員の役割の重要性は一層広く定着・認識されてきている。

平成20年度は、引き続き会員の育成技術の一層の向上に資する事業に重点を置きつつ、関係機関のご協力とご支援を得ながら、以下の事業を計画的、効率的に実施して健全なる競馬の発展に寄与するものとする。

また、育成者が担っている重要な役割や、当協会の業務運営、会員の活動内容等について積極的にPR活動に取り組むとともに、本協会の目的に適う事業・制度の改善については、積極的検討を行い、経営環境に注視しつつ経営リスク軽減に向け努めるものとする。



1. 育成技術表彰事業の実施

- (1) 会員の育成技術の向上を図り、丈夫で強い馬づくりを目指した競走馬育成の健全な発展に資するため、育成技術表彰事業を実施する。
- (2) 表彰対象競走は昨年同様、全445競走程度とする。
新馬競走(250程度)、2歳重賞競走(15)、障害重賞競走(10)、3歳以上重賞競走(110)、3歳以上平地オープン競走(除く3歳限定)(60程度)
- (3) 一部表彰対象競走にあつては、施行場における表彰式への参加機会新設の実現に向けて、関係機関との調整を図る。

2. 育成技術講習会の開催

- (1) 競走馬の育成・調教に関する経営・飼養・衛生・環境管理及び馴致・トレーニング法等の知識や手法について、普及啓蒙を図り、丈夫で強い馬づくりに資するため、育成技術講習会を実施する。
- (2) その実施にあつては、昨年に引き続き、日本中央競馬会、(財)軽種馬育成調教センターとの連携、共催することにより、なお一層の運営効率化を図ることとする。

3. 軽種馬経営高度化指導研修事業の実施

- (1) 会員の軽種馬育成に関する高度な知識・技術の習得を目的として、生産育成技術海外派遣事業を実施する。
- (2) 制度がより有効に活用されるよう、運営について、関係機関と調整を図るとともに、会員への情報提供等を積極的に行う。

4. 2歳育成馬トレーニングセールスの推進

- (1) 会員の育成成果を公開する場でもあるトレーニングセールにおいて、その開催後援等により市場取引の活性化を図る。

5. 育成経営の実態及び改善に関する基礎調査事業の実施

- (1) 競走馬の育成を行う者の、育成環境の改善及び育成技術の向上に資するため育成経営の基礎調査並びに特別調査を実施する。
- (2) 会員の経営基盤強化に資する調査・研究のため、従来の概況調査等に加えて人材養成・確保に関する調査を実施する。

6. 軽種馬生産育成強化資金利子補給事業の実施

- (1) 育成施設等の整備のため、(財)全国競馬・畜産振興会からの助成を受け、軽種馬生産育成強化資金利子補給事業を実施する。
- (2) 制度がより有効に活用されるよう、関係機関との情報交換、諸調整を図る。

7. 育成情報誌発行事業の実施

- (1) 当協会の主要行事、関連する業界の動向等、会員が必要とする情報を提供するため、機関誌「いくせい」を発行する。

8. その他付随的な事業等への取り組み

- (1) 会員の経営改善に資するため、畜産環境整備リース事業及び競馬関連機材有効活用事業に積極的に取り組む。

9. 協会組織の拡充強化と積極的なPR活動の実施

- (1) 協会への新規加入を促進し、育成者の連携と連帯を深めることを目指し、組織の整備拡充を図る。
- (2) 公益法人制度改革における、公益社団法人の認定を受けるべく、必要な諸手続きを進める。
- (3) 新規会員の招致活動及び協会活動、会員牧場のPR(上記機関誌の活用、マスコミ等への情報提供等)を積極的に行うとともに、ホームページ作成の準備調査に取り組む。

10. 会議の開催

- (1) 上記の事業運営について、審議・協議するため、総会、理事会等を開催する。

新役員の紹介

監 事



安達 正奉氏

監 事



倉澤 景晴氏

平成20年度臨時総会開催 (副会長吉田武徳氏選出)

平成20年度臨時総会が、平成20年9月26日午後2時から、日本中央競馬会六本木事務所9階第3会議室において、開催されました。

赤塚洋文副会長理事より9月30日をもって理事を辞任したい旨の届出があり、理事の補欠選任の推薦が行われ、吉田武徳氏が選任されました。

任期は平成21年2月19日までとなります。

この後行われた理事会で吉田理事は副会長に選出されました。

吉田武徳副会長理事略歴



氏名	吉田武徳 (よしだ たけのり)
生年月日	昭和20年6月8日
本籍地	東京都
現住所	千葉県市川市

略歴

昭和44年3月	帯広畜産大学獣医学科卒
昭和44年4月	日本中央競馬会入会
昭和58年2月	栗東トレーニングセンター公正室専門役
平成10年2月	国際部長
平成12年2月	競走馬総合研究所長
平成20年10月	(社)競走馬育成協会 副会長理事

平成20年度『育成等に関する懇談会』

平成12年度から「育成等に関する懇談会」が開催され、「競走馬育成に関わる諸問題」について日本中央競馬会と当協会との間で意見交換を行ってきました。

平成20年度の懇談会は、7月4日午前10時から、日本中央競馬会からは水野豊香理事、仁岸馬事部長、木口生産育成対策室長、担当者8名が、当協会からは例年より出席者を増やして赤塚副会長理事をはじめとする10理事、担当者2名が出席して日本中央競馬会六本木事務所9階第1会議室で開催されました。

協議は、19年度に当協会が提議したなかのうち「生産育成技術者の確保」、「育成者のウイナーズサークルにおける表彰」などについて活発な意見交換がありました。

「生産育成技術者の確保」については、日本中央競馬会が専任担当者をおき「調査、対応策の検討」を行っている現状について説明がありました。また、調査の中間報告の説明がありました（「育成技術者の確保に関する問題について」を参照ください）。

「育成者のウイナーズサークルにおける表彰」については、20年度から函館、札幌、小倉2歳ステークス競走（JpnⅢ）の実施が説明され、育成者の立会が求められました。

当協会から本年度に提議した内容は、次のとおりです。

1. 育成技術者の確保

日本の育成は育成・調教施設の高度化、分業化、協業化が進み、育成技術は飛躍的な進展を遂げている。

一方、これらの育成に携わる育成技術者をはじめとする人材の慢性的な不足と相俟って若者の競馬サークル（軽種馬の生産・育成牧場）へ就労希望者が激減しており人材確保は育成業界の懸案事項となっている。このような状況が進捗すると育成の経営基盤の弱体化と技術低下を招き、ひいては人材不足によりやむなく廃業せざるを得ない事態が生ずると競馬の安定的な発展に支障をきたすので当協会も強い危機感を感じている。

今のうちに競馬サークル全体で対策を講じる必要がある。

○考えられる方策

（1）中長期的な方策

- ① 次世代を担う子供達へ馬の魅力を普及

させる。

- ② 育成牧場の就労環境の改善。
- ③ 外国人労働者の受け入れに関する規制緩和への働きかけ。
- ④ 技術者確保に関する協議会の設置。

（2）短期的な方策

- ① 競馬学校生徒の牧場実習制度の導入。
- ② 育成に関する積極的な情報発信。

2. 競馬ファンへ育成情報の提供

育成の重要性は競馬関係者へ徐々に浸透してきている。特に、民間育成牧場の役割は調教師に匹敵するところまで近づいてきている。このような実態から、競馬ファンへ育成情報を積極的に提供する時期が到来していると考えられる。競馬ファンへ育成情報提供を行うとすれば育成牧場名や育成期間を明確にするための情報整備が必須の条件で、当面は育成馬の移動歴を集計し、いつでも開示できる体制を構築する業務をJRA主導で行うのが最善と思われる。この前段階として、健康手帳へ移動歴記入の徹底と義務化（記載していない馬は入厩できない）が必要である。

3. 育成技術表彰の維持と充実

育成技術表彰事業は育成牧場の役割と育成技術水準の向上に資する事業として、会員の期待や関心の極めて高い事業である。

育成技術の向上やトレセンへの預託環境の変化等に伴い、今後表彰対象件数が増加することが予想される。その対処策とこれまでと同様の事業が維持されるよう特段の配慮をお願いしたい。

4. 育成牧場の基盤強化対策

トレセンと育成牧場との連携が急速に進展し、よりレベルの高い技術が求められている。

これに伴う育成・調教を行う施設の整備は不可欠なものとなっている。

- （1）競馬の安定的な発展のためには会員の施設の改善が急務なことから、より有効な事業の設置について検討を願いたい。
- （2）トレーニングセール上場馬は会員の育成馬が多数を占めており、市場振興の立場から、日本軽種馬協会事業と足並みを揃えるために新たな振興事業が設置される場合は、当協会会員も対象になるよう配慮願いたい。

育成技術表彰事業のあらまし

1. 平成19年度育成技術表彰について

(1) 優勝馬育成会員の表彰

平成11年の現制度発足以来、育成技術表彰事業の実施に当たっては、基本的には、育成段階の成果が反映され易いと考えられる、新馬の競走に重点を置いてきたところですが、平成18年度より、平地の3歳以上のオープン競走（3歳限定競走を除く）を表彰の対象に加え、事業内容の充実化を図りました。

表彰対象の拡充と、何より会員の育成技術向上の成果として、平成19年度の表彰件数は、213件と増加し予算を大きく上回ったため、前年度同様、「育成技術表彰規程」に基づき2歳及び3歳新馬競走の優勝馬の単価切り下げ（100⇒91.7千円）を余儀なくされました。

なお、表彰の対象となった会員は、表2のとおりです。

(2) 平成11年から平成19年までの育成馬届出状況について

平成11年から平成19年までの育成届出頭数、届出率等は、表1・図のとおりです。

2. 平成20年度事業のあらまし

平成20年度についても、前年度に引続いて、育成段階の成果が反映され易いと考えられる新馬の競走（2歳新馬・3歳新馬）、2歳重賞、障害重賞競走、3歳以上の重賞競走及び平地の3歳以上のオープン競走（3歳限定競走を除く）を表彰対象として、育成技術表彰事業を実施します。

表彰要件はこれまでと同様に、新馬競走及び2歳重賞競走については、当該馬が満1歳となる年度の9月

1日から12月31日までの間に騎乗馴致を開始し、翌年の5月31日までの期間に継続して5ヶ月（150日）以上育成した育成馬です。

障害競走の表彰要件については、会員が継続して2ヶ月（60日）以上障害調教を行った馬が、トレセン等入きゅう後6週間（42日）以内に障害試験に合格し、障害重賞競走に優勝した場合となります。

3歳以上の重賞競走及び3歳以上のオープン競走の表彰要件は、会員が継続して14日以上育成調教を行った馬が、トレセン等入きゅう後1ヶ月（30日）以内に対象となる競走に優勝した場合となります。

表彰金の額は、2歳重賞競走は、Jpn I - 20万円、Jpn II及びJpn III - 10万円、新馬競走10万円、障害競走はJ・G I - 20万円、J・G II及びJ・G III - 10万円、3歳以上の重賞競走は20万円、3歳以上のオープン競走は10万円となっており、すべて前年度同額となっています。

但し、表彰金額が予算を上回った場合における単価の調整について、従来は2・3歳新馬競走のみで調整していましたが、本年度の改正により、今後は全体の中で助成金と自己資金のそれぞれの経理区分において単価切り下げを実施することに改めました。

なお、平成20年度の実施に伴う届出方法につきましては、報告事務の省力化を図るため、育成馬の表彰事業（新馬競走）の対象となる在きゅう馬の届出のみといたしました（従来は、在きゅうするすべての馬）。届出情報の提出回数は、これまで同様、年2回（1月及び7月の各1日現在）となっています。

表1 育成技術表彰事業育成馬届出状況推移

	平成11年度 (平成9年産駒)	12年度 (10年産駒)	13年度 (11年産駒)	14年度 (12年産駒)	15年度 (13年産駒)	16年度 (14年産駒)	17年度 (15年産駒)	18年度 (16年産駒)	19年度 (17年産駒)
会員数	245	257	230	225	219	211	206	199	205
届出牧場数	107	127	130	123	117	105	107	109	113
届出率(%)	43.7%	49.4%	56.5%	54.7%	53.4%	49.8%	51.9%	54.8%	55.1%
育成届出頭数	3,252	3,742	3,864	3,761	3,647	3,676	3,537	3,676	3,834

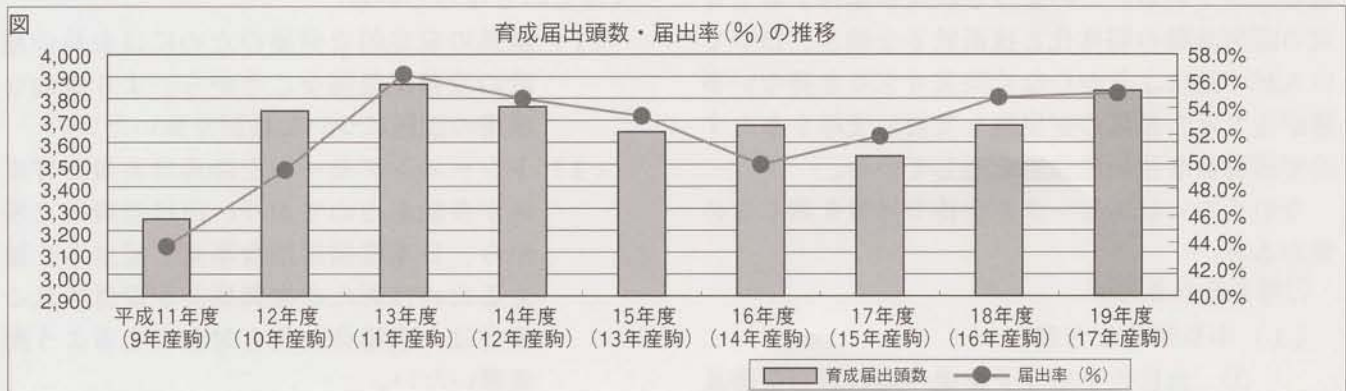


表2

平成19年度 育成技術表彰事業対象会員一覧

(延49会員)

平成19年12月31日現在

会員番号	表彰会員名	代表者名	支部名	競走馬名	育成日数	優勝競走名		賞金(千円)	
1004	(有)内田ステーブル	内田 裕也	北海道	エイブルベガ	224	1回函館6日5R	新馬	7/1	91.7
				レオマイスター	218	2回福島8日5R	新馬	7/8	91.7
1008	(有)エクセルマネジメント	山本 将裕	北海道	エリモサリュート	195	1回小倉2日4R	新馬	1/21	91.7
				セレスハント	200	3回新潟1日5R	新馬	8/11	91.7
				ロスベトリュス	165	4回東京6日4R	新馬	10/20	91.7
				スナークアステール	212	5回京都1日5R	新馬	11/3	91.7
1012	小国ステーブル	小国 和紀	北海道	サクセスブロッケン	273	3回福島9日2R	新馬	11/17	91.7
1013	(有)萩伏共同育成場	村下 正俊	北海道	マルブツアトム	243	2回京都5日4R	新馬	2/10	91.7
				ホワイトメロディー	239	1回阪神8日6R	新馬	3/18	91.7
				ナンヨーヒルトップ	193	2回札幌3日5R	新馬	9/15	91.7
1015	(有)カタオカステーブル	片岡 禹雄	北海道	ブラッシュアップ	273	4回京都6日5R	新馬	10/20	91.7
1016	(有)加藤ステーブル	加藤 信之	北海道	オリエンタルロック	213	札幌2歳ステークス	Jpn III	9/29	100
				ポーデンゼー	214	2回新潟2日5R	新馬	7/15	91.7
				マルブツキング	220	5回京都4日4R	新馬	11/11	91.7
1017	(有)賀張共同育成センター	横本 一雄	北海道	ラビッドガール	217	3回福島1日2R	新馬	10/20	91.7
1020	(有)グランデファーム	衣斐 浩	北海道	イイデケンシン	243	全日本2歳優駿	Jpn I	12/19	200
				イイデケンシン	243	1回函館7日5R	新馬	7/7	91.7
				ローレルエルヴェル	243	3回新潟2日6R	新馬	8/12	91.7
				アルカザン	237	4回京都8日6R	新馬	10/28	91.7
				イイデシンゲン	167	5回東京3日5R	新馬	11/10	91.7
				サダムイダテン	237	5回京都5日6R	新馬	11/17	91.7
				ラインルージュ	206	3回中京9日2R	新馬	11/24	91.7
ジウクリュウシン	203	5回阪神2日6R	新馬	12/2	91.7				
1021	(有)グランド牧場	伊藤 佳幸	北海道	ハウザン	245	1回函館2日5R	新馬	6/17	91.7
				アドマイヤフォース	273	2回新潟8日6R	新馬	8/5	91.7
1026	(有)コスモビューファーム	岡田 繁幸	北海道	ドリームアビーム	258	5回京都8日5R	新馬	11/25	91.7
				ドリームマイスター	273	5回中山3日5R	新馬	12/8	91.7
1028	(有)様似木村牧場	木村 薫	北海道	ヨクバリ	205	5回京都2日5R	新馬	11/4	91.7
1032	(有)下河辺牧場	下河辺 俊行	北海道	パッションローズ	273	1回札幌7日4R	新馬	9/1	91.7
				デラックスヴィラ	273	4回中山5日5R	新馬	9/22	91.7
1033	社台ファーム	吉田 照哉	北海道	キャプテントウーレ	241	デイリー杯2歳ステークス	Jpn II	10/13	100
				ディラクエ	273	北海道2歳優駿	Jpn III	10/25	100
				オメガエクスプレス	273	1回京都2日4R	新馬	1/7	91.7
				シュガーヴァイン	273	1回京都2日6R	新馬	1/7	91.7
				グレースエボナ	273	1回中山4日3R	新馬	1/13	91.7
				トーセンキャプテン	273	1回京都4日5R	新馬	1/13	91.7
				ドリーミーベガサス	167	1回中山6日3R	新馬	1/20	91.7
				ミラクルハニー	273	1回中山7日6R	新馬	1/21	91.7
				アブソリュート	273	1回東京1日6R	新馬	1/27	91.7
				フサイチジュエル	273	2回京都2日6R	新馬	1/28	91.7
				ブリティダンス	273	2回京都4日5R	新馬	2/4	91.7
				ツオオブキング	244	1回東京6日5R	新馬	2/11	91.7
				ココナッツパンチ	273	1回東京6日6R	新馬	2/11	91.7
				パッションレッド	273	2回京都6日6R	新馬	2/11	91.7
				ブリュンヒルト	273	1回阪神3日5R	新馬	3/3	91.7
				ダイワマックワン	227	2回福島2日5R	新馬	6/17	91.7
				ビーチアイドル	227	3回阪神5日5R	新馬	6/30	91.7
				エフティアクトレス	220	2回新潟3日3R	新馬	7/21	91.7
				タケミカツチ	273	2回新潟6日6R	新馬	7/29	91.7
				スパイオブラヴ	273	2回札幌2日5R	新馬	9/9	91.7
				ツルガオカラランナー	273	4回阪神3日4R	新馬	9/16	91.7
				フローテーション	273	4回阪神6日5R	新馬	9/23	91.7
				フジヤマラムセス	273	4回東京2日4R	新馬	10/7	91.7
				メイビリーヴ	242	5回東京1日6R	新馬	11/3	91.7
				ミステリアスライト	273	5回東京4日6R	新馬	11/11	91.7
				スワンキーボーチ	273	5回東京9日6R	新馬	11/23	91.7
				ラヴドシャンクシー	273	5回東京8日4R	新馬	11/25	91.7
リトルアマポーラ	245	5回阪神3日5R	新馬	12/8	91.7				
リパティープリント	273	5回中山6日6R	新馬	12/15	91.7				
パリスエトランゼル	273	5回阪神7日6R	新馬	12/22	91.7				
1034	白井牧場	白井 岳	北海道	スターオブアフリカ	223	4回中山1日5R	新馬	9/8	91.7
				アイティトップ	225	5回中山6日6R	新馬	12/16	91.7
1039	(有)大作ステーブル	村田 大作	北海道	キンシニユーストン	265	2回小倉3日4R	新馬	7/21	91.7
				マルサンサイレンス	265	4回東京5日3R	新馬	10/14	91.7
1041	田口トレーニングセンター	田口 廣	北海道	マルブツイスター	209	小倉2歳ステークス	Jpn III	9/2	100
				パロズハート	200	5回中山6日5R	新馬	12/16	91.7
1042	(有)武田ステーブル	武田 茂男	北海道	フィールドルージュ	17	大沼ステークス	オープン	6/23	100
				オーシャンエイブス	221	1回京都6日3R	新馬	1/20	91.7
				メイショウジダーン	197	1回阪神6日6R	新馬	3/11	91.7

会員番号	表彰会員名	代表者名	支部名	競走馬名	育成日数	優勝競走名		賞金(千円)	
1042	南 武田ステーブル	武 田 茂 男	北海道	タマモアスリート	231	5回京都3日4R	新馬	11/10	91.7
				インブルーヴ	260	5回阪神1日6R	新馬	12/1	91.7
				メイショウフウリン	243	5回阪神5日6R	新馬	12/15	91.7
1046	南 チェスナットファーム	広 瀬 亨	北海道	ダイナミックゲイト	231	3回中京1日4R	新馬	12/1	91.7
1047	南 地興牧場	小 林 政 幸	北海道	ノーブルマン	158	3回中京4日3R	新馬	12/9	91.7
1048	南 千代田牧場	飯 田 正 剛	北海道	ルルバンブルー	243	フェアリーステークス	Jpn III	12/16	100
				ギブソンガール	273	1回京都4日4R	新馬	1/13	91.7
				ヒシミッション	235	3回阪神3日5R	新馬	6/23	91.7
				ベストオブミー	273	2回函館1日4R	新馬	7/14	91.7
				フォーチュンワード	273	2回新潟5日6R	新馬	7/28	91.7
				ストロングジョイス	273	2回新潟7日6R	新馬	8/4	91.7
				サトノハビネス	258	4回中山6日6R	新馬	9/23	91.7
ドットコム	273	5回中山2日5R	新馬	12/2	91.7				
1053	南 西山牧場	西 山 茂 行	北海道	ミリオンウェーブ	237	2回小倉8日4R	新馬	8/5	91.7
1054	南 日進牧場	谷 川 利 昭	北海道	リリカルヴァース	249	3回小倉8日4R	新馬	9/2	91.7
1056	ノーザンファーム	吉 田 勝 己	北海道	エフティマイア	249	新潟2歳ステークス	Jpn III	9/2	100
				キングストレイル	141	京成杯オータムH	G III	9/9	200
				フサイチアソート	273	東京スポーツ杯2歳ステークス	Jpn III	11/17	100
				トールポビー	249	阪神ジュベナイルフィリーズ	Jpn I	12/2	200
				ノーフォークパイン	238	1回中山1日6R	新馬	1/6	91.7
				ケアレスウイスパー	273	1回京都1日3R	新馬	1/6	91.7
				キッズヴェローチェ	273	1回中山2日6R	新馬	1/7	91.7
				ナイツブリッジ	273	1回中山5日5R	新馬	1/14	91.7
				アーリドラレーテ	273	1回京都7日3R	新馬	1/21	91.7
				ベッラレイア	273	1回京都7日6R	新馬	1/21	91.7
				ミンティエアー	273	1回東京2日5R	新馬	1/28	91.7
				ツルマルオジョウ	241	1回小倉4日4R	新馬	1/28	91.7
				アドマイヤヴィート	273	1回東京3日5R	新馬	2/3	91.7
				ラフアップ	219	1回東京5日6R	新馬	2/10	91.7
				ヒカルアモーレ	226	2回京都6日3R	新馬	2/11	91.7
				ナタラージャ	273	2回京都8日5R	新馬	2/18	91.7
				ジークムント	273	1回阪神1日5R	新馬	2/24	91.7
				リングジアラム	252	2回中山2日4R	新馬	2/25	91.7
				サバスデイ	273	1回阪神2日5R	新馬	2/25	91.7
				シグナリオ	273	2回中山4日6R	新馬	3/4	91.7
				マチカネアマテラス	273	2回中山6日6R	新馬	3/11	91.7
				ルミナリエ	234	2回福島1日5R	新馬	6/16	91.7
				ポルトフィーノ	249	3回阪神1日5R	新馬	6/16	91.7
				エフティマイア	249	2回福島4日5R	新馬	6/24	91.7
				パーキングウルフ	179	3回阪神7日5R	新馬	7/7	91.7
				ミゼリコルデ	185	1回函館8日5R	新馬	7/8	91.7
				スズジュビター	262	2回新潟4日6R	新馬	7/22	91.7
				レディービスティー	273	2回函館4日4R	新馬	7/22	91.7
				グリフィス	273	1回札幌1日4R	新馬	8/11	91.7
				ベンチャーナイン	208	3回新潟5日6R	新馬	8/25	91.7
				ラルケット	273	3回新潟6日5R	新馬	8/26	91.7
				スマイルジャック	214	3回新潟7日6R	新馬	9/1	91.7
				ナンヨーサンライズ	273	2回札幌1日5R	新馬	9/8	91.7
グルーオン	156	4回中山2日4R	新馬	9/9	91.7				
ドリームローズ	251	4回阪神4日4R	新馬	9/17	91.7				
ダークエンジェル	273	4回中山8日5R	新馬	9/30	91.7				
ピースキーパー	252	4回京都2日4R	新馬	10/7	91.7				
ダイワカンパニー	273	4回東京3日5R	新馬	10/8	91.7				
ダノンインスパイア	273	4回東京4日3R	新馬	10/13	91.7				
レーヴダムール	273	4回京都8日3R	新馬	10/27	91.7				
フサイチアソート	273	4回東京9日4R	新馬	10/28	91.7				
キングスエンブレム	273	5回京都2日6R	新馬	11/4	91.7				
モンスターパーク	273	5回東京3日4R	新馬	11/10	91.7				
ヴァリアントレディ	221	5回京都3日5R	新馬	11/10	91.7				
オーロマイスター	252	5回東京6日6R	新馬	11/18	91.7				
アドマイヤロザ	255	5回京都9日5R	新馬	11/23	91.7				
ミステイフォレスト	273	5回京都7日5R	新馬	11/24	91.7				
プリマフォルツァ	273	5回中山1日5R	新馬	12/1	91.7				
ムードインディゴ	273	3回中京3日4R	新馬	12/8	91.7				
フィッカルベリー	221	5回阪神6日6R	新馬	12/16	91.7				
ステルスソニック	273	5回中山8日4R	新馬	12/23	91.7				
1057	南 ノースヒルズマネジメント	前 田 幸 治	北海道	オディーール	251	ファンタジーステークス	Jpn III	11/4	100
				サブジェクト	273	ラジオNIKKEI杯2歳ステークス	Jpn III	12/22	100
				エンブレイス	273	2回京都4日4R	新馬	2/4	91.7
				フェルヴィード	273	1回阪神4日6R	新馬	3/4	91.7
				アーネストリー	254	3回阪神8日5R	新馬	7/8	91.7
				サブジェクト	273	1回札幌2日4R	新馬	8/12	91.7

会員番号	表彰会員名	代表者名	支部名	競走馬名	育成日数	優勝競走名		賞金(千円)	
1057	(有) ノースヒルズマネジメント	前田 幸治	北海道	ラベ ミティーク	273 273	4回阪神5日5R 4回京都1日3R	新馬 新馬	9/22 10/6	91.7 91.7
1065	(有) 坂東牧場	板東 勝彦	北海道	リリアンタイム エパーモア リーガルアミューズ コオリナストーン シークエスト	245 237 273 266 234	1回小倉8日4R 2回中山8日6R 1回函館5日5R 4回京都5日3R 5回阪神7日5R	新馬 新馬 新馬 新馬 新馬	2/11 3/18 6/30 10/14 12/22	91.7 91.7 91.7 91.7 91.7
1069	(有) ビクトリーホースランチ	荻野 豊	北海道	メイショウヨリトモ タイキティファニー	204 248	2回小倉5日4R 5回中山7日5R	新馬 新馬	7/28 12/22	91.7 91.7
1070	(有) 日高軽種馬共同育成公社	小竹 國昭	北海道	マロンティアアラ	178	4回東京3日3R	新馬	10/8	91.7
1071	(有) 日高大洋牧場	小野田 健治	北海道	リラコルレオーネ ラインプレーア	273 253	1回東京3日6R 4回京都2日3R	新馬 新馬	2/3 10/7	91.7 91.7
1073	(有) ビッグレッドファーム	岡田 美佐子	北海道	マイネルプレーザ ゴールドストレイン マイネレーツェル マイネルアトレ マイネルエルマス コスモミネルヴァ	273 273 273 273 273 211	2回新潟2日6R 2回新潟3日6R 2回小倉3日5R 2回小倉6日4R 3回福島3日2R 5回中山4日5R	新馬 新馬 新馬 新馬 新馬 新馬	7/15 7/21 7/21 7/29 10/27 12/9	91.7 91.7 91.7 91.7 91.7 91.7
1075	(有) ファンタストクラブ	古岡 宏仁	北海道	アサヒライジング クヴェルチュール ロールオブザダイス スマイルオンザラン	41 28 227 211	クイーンS キーンランドC 5回阪神2日5R 5回中山4日6R	Jpn III Jpn III 新馬 新馬	8/12 8/26 12/2 12/9	200 200 91.7 91.7
1080	(有) ベーシカル・コーチング・スクール	高橋 司	北海道	ナリタスレンダー ジュヴェオーナ	184 214	4回阪神3日5R 4回中山7日5R	新馬 新馬	9/16 9/29	91.7 91.7
1084	(有) ホースブレイス	橋本 正光	北海道	バルティータ	234	5回中山1日4R	新馬	12/1	91.7
1087	(有) 三嶋牧場	三嶋 昌春	北海道	アモーレヴォレ	218	1回札幌6日4R	新馬	8/26	91.7
1093	(有) メジロ牧場	北野 雄二	北海道	メジロコロセア メジロアリス メジロシーゴ	161 273 273	みなみ北海道ステークス 2回新潟1日6R 2回札幌4日5R	オープン 新馬 新馬	8/4 7/14 9/17	100 91.7 91.7
1094	(有) 目名共同トレーニングセンター	岡田 隆寛	北海道	ヨシカツゾ	207	4回東京2日3R	新馬	10/7	91.7
1095	(有) ヤマダステーブル	山田 秀人	北海道	アローブラネット ダンツキッスイ ダンツハイロー ダンツウィニング	213 265 163 212	1回小倉5日4R 4回阪神7日5R 4回京都7日4R 5回東京4日5R	新馬 新馬 新馬 新馬	2/3 9/29 10/21 11/11	91.7 91.7 91.7 91.7
1096	(有) 吉澤ステーブル	吉澤 克己	北海道	クレープシュゼット トウカイゲイル チャームウィーク トシザカイモン ポケットビスケット フリートアドミラル マコトアンドルー アポロフェニックス ツルマルストーム サンライズラッシュ イエロータキオン スペシャルブレイド	259 230 249 239 273 221 243 227 253 241 243 265	1回中山3日3R 1回中山3日4R 1回中山7日5R 2回京都3日6R 1回東京7日3R 2回中山1日6R 1回阪神5日5R 1回函館2日5R 4回阪神2日5R 5回京都6日5R 5回京都9日6R 5回京都7日6R	新馬 新馬 新馬 新馬 新馬 新馬 新馬 新馬 新馬 新馬 新馬 新馬	1/8 1/8 1/21 2/3 2/17 2/24 3/10 6/24 9/9 11/18 11/23 11/24	91.7 91.7 91.7 91.7 91.7 91.7 91.7 91.7 91.7 91.7 91.7 91.7
2017	(有) 天栄ホースパーク	半澤 信彌	東北	シルクプレスト シルクストレングス	269 200	2回中山5日6R 3回小倉6日4R	新馬 新馬	3/10 8/26	91.7 91.7
2018	テンコー・トレーニングセンター	島川 利子	東北	トーセンブライト タニノゴッドマザー	54 164	ベルセウスステークス 5回中山3日6R	オープン 新馬	10/8 12/8	100 91.7
3017	(有) サラブレッドトレーニングアイランド	中村 浩章	関東	ソウルスクリーム	221	4回京都3日3R	新馬	10/8	91.7
3022	(有) スピリットファーム	明智 義雄	関東	トウショウギア トウショウギア	15 23	千葉ステークス 樺ステークス	オープン オープン	3/10 5/26	100 100
3035	水野馬事センター	諸岡 慶	関東	マイネルシーガル	16	富士ステークス	G III	10/20	200
3036	(有) ミッドウエイファーム	宮崎 利男	関東	ジョリーダンス	17	阪神牝馬ステークス	G II	4/7	200
3037	(有) ミホ分場	藤沢 美咲	関東	フライングアップル	17	スプリングステークス	Jpn II	3/18	200
4008	(株) グリーンウッドパーク	木村 幸雄	関西	ディアデラノビア ピカレスクコート タスカータソルテ ローゼンクロイツ ポップロック シルクネクサス サンアディユ ドリームジャーニー サンアディユ	25 15 14 56 24 32 72 97 23	京都牝馬ステークス ダービー卿チャレンジトロフィー 京都新聞杯 金鯱賞 目黒記念 巴賞 アイビスサマーダッシュ 神戸新聞杯 京阪杯	G III G III Jpn II G II Jpn II オープン Jpn III Jpn II G III	1/28 4/1 5/5 5/26 5/27 7/8 7/15 9/23 11/23	200 200 200 200 200 100 200 200 200
5003	柏木牧場	柏木 務	九州	コウユーココロコロ	163	2回小倉1日5R	新馬	7/16	91.7
5005	協和牧場鹿兒島分場	本田 艶子	九州	リーヴタイム	200	4回京都9日5R	新馬	10/28	91.7
5006	(農) 申良軽種馬生産育成組合	釘田 義広	九州	メッサーシュミット ゴールデンガッツ	239 186	2回小倉1日4R 5回京都6日6R	新馬 新馬	7/16 11/18	91.7 91.7
5007	シーサイドホース	下西 和彦	九州	シゲルクシエラ シゲルトンカーン シゲルアコガレ	246 273 212	2回小倉2日4R 3回小倉1日4R 5回阪神5日7R	新馬 新馬 新馬	7/15 8/11 12/15	91.7 91.7 91.7

表彰金合計 21,389,400円

ウイナーズサークルにおける 育成技術表彰の実現

J R Aとの協議の結果、かねてから要望のあった競馬場でのウイナーズサークルにおける会員の皆様の表彰式への参加が今年実現しました。

対象レースは函館競馬場で8月10日に行われる函館2歳ステークス、小倉競馬場で9月7日に行われる小倉2歳ステークス、札幌競馬場で10月4日に行われる札幌2歳ステークスの3競走です。

この3競走は2歳の早期に行われる重賞競走であり、ファンの注目が集まる表彰式に会員の皆様が参加することで、育成の重要性をアピールするとともに、育成技術の成果が存分に発揮される競走であります。出走馬育成の会員の方はぜひ競馬場にご来場ください。

◇函館レポート◇

函館2歳ステークスは38年間親しまれた現スタンドで行われる最後の日である第2回函館競馬の最終日のメインレースと晴天に恵まれ行われました。J R Aで一番早い2歳重賞を制したのはノーザンファーム育成のフィフスペトル号でした。当協会赤塚副会長より協会賞の授与が行われ、育成界にとって新しい歴史が刻まれる一日となりました。

ご協力いただいたJ R A函館競馬場の皆様、ありがとうございました。



赤塚副会長より育成者に協会賞が手渡された。

競馬関連機材等有効活用事業

競馬関連機材等有効活用事業は、会員の育成施設用機材の投資負担を軽減し、経営の安定に資する目的で、JRA関連施設等で使用を取りやめた競馬関連機材等について、当協会が関係各位に働きかけ、再利用を斡旋するもので、平成15年より実施されています。

平成20年度は5月に札幌競馬場で使用されていた馬糞収集車の斡旋を行いました。

年内は更に12月中旬よりJRAの施設で利用されていた日本スターティングシステム株式会社所有の機材、トラクター2台（栗東トレーニングセンター・美浦トレーニングセンター各1台）、発馬機1台（栗東トレーニングセンター）を斡旋予定です。

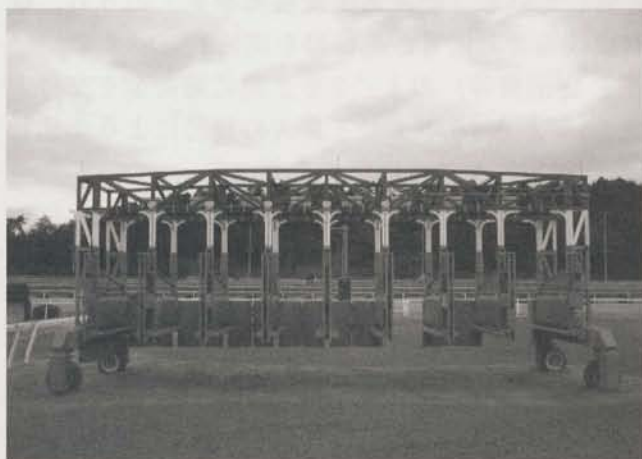
なお、応募が多く、希望が重複した物件に関しましては、監事立会いの下、厳正なる抽選により取得者を決定しています。

取得者の選定について、前回の同種物件の応募時に抽選に外れた取得希望会員につきましては、一回に限り優先倍率の適用を行いますので、前回外れた会員の方はふるってご参加ください。

また、前年度の取得が完了していない会員の応募は除外となりますのでご注意ください。

個々の提供物件により、買取額や取得に係る手数料、輸送費等の経費は、取得会員の自己負担となりますが、今後も優良機材を多数斡旋できるよう、情報収集に努めてまいります。

12月中旬よりの斡旋予定物件



8 枠発馬機（栗東トレセン）



トラクター（栗東トレセン）

育成技術講習会

平成10年度より実施している育成技術講習会については、平成19年度から、JRA、BTC、当協会の3団体共催として実施しています。本年度につきましては下記のとおり開催予定になっています。

○東北地区

10月8日（水）13：00～16：30 八戸家畜市場

「若馬のしつけと馴致についてⅡ」

講師：JRA生産育成対策室 石丸睦樹調査役

○関西地区

10月21日(火) 16:00~17:30 JRA栗東トレセン
「競走馬の騎乗技術の向上について」

講師：JRA競馬学校 箕田 早人 専任教官

○関東地区

10月28日(火) 16:00~17:30 JRA美浦トレセン
「競走馬の騎乗技術の向上について」

講師：JRA競馬学校 箕田 早人 専任教官

○九州地区

11月6日(木) 13:00~16:30 JBB九州種馬所
「若馬のしつけと馴致についてⅡ」

講師：JRA生産育成対策室 石丸睦樹調査役



昨年の講習会の様子

軽種馬経営高度化指導研修事業 (生産育成技術者海外派遣事業)

当協会では、平成17年度から地方競馬全国協会が実施している「競走馬生産振興事業」のうち、軽種馬経営高度化指導研修事業により補助を受け、生産育成技術者の海外派遣研修を実施しています。

この事業は、海外研修に係る諸経費(交通費、研修費、宿泊費等)の1/2を上限に補助金を交付するもの(詳細は「実施要綱」H17.4.1制定)で、平成10年から16年までJRAの補助により実施していた期間を通算すると、昨年まで実に43名がこの制度を利用したことになります。

本年度は、まず(財)軽種馬育成調教センターから推薦のあった同センター第25期卒業生7名について、3月17日に協会本部にて選考試験実施のうえ、4月23日から7月24日までの3ヶ月間、アイルランド競馬学校RACE(Racing Academy & Centre of Education)に派遣しました。

また、ノーザンファームの川北恭司氏も9月25日から12月21日までの予定でオーストラリアのリー・フリードマン厩舎で研修中です。



今年度の派遣者及び就労牧場は次のとおりです。

(財) 軽種馬育成調教センター卒業生

- 伊東哲也氏 (有) ノースヒルズマネジメント
- 加藤 明氏 (有) 加藤牧場
- 久保亮太氏 (有) 武田ステーブル
- 斉藤真哉氏 (有) カントリー牧場
- 櫻田翔太氏 セキカワステーブル
- 羽石大逸氏 (有) 賀張共同育成センター
- 深田久典氏 (有) メジロ牧場

川北恭司氏 ノーザンファーム

本事業の対象期間は現在のところ平成22年度までとなっています。予算に余裕がありますのでふって制度をご利用ください。21年度の募集は来年の1月に各支部を通じて行いますので会員牧場の皆様のご応募お待ちしております。

補助対象者とは？

1. 協会の会員とその家族、及び会員が経営する牧場の従業員が経営する牧場の従業員であって、次の要件に該当する者

- ① 軽種馬生産育成に関する高度な知識・技術の修得を志向し、将来的にわが国の軽種馬育成に取り組む意欲が旺盛とみこまれる者
- ② 所属する協会支部長の推薦がある者
- ③ 協会と日本軽種馬協会双方の会員である場合には、原則として育成を主たる業とする会員または関係者
- ④ 会員が経営する牧場の従業員にあつては、牧場経営者の推薦があり、同牧場で1年以上就労している者又は協会会長がこれと同等と認めた者

2. 会長が指定する生産育成技術者養成機関を卒業後3ヶ月以内の者（卒業予定者も申請できるものとする。）であつて、生産育成牧場への就労を予定し、又は就労しており、当該養成機関の推薦及び就労予定牧場、又は就労牧場からの申請がある者

研修期間：3ヶ月以上1年以内

海外研修場所：アイルランド、オーストラリア、アメリカなどの実績があります。

- ① 競馬先進国の軽種馬関連人材養成機関
- ② 競馬先進国の軽種馬牧場及び競馬場厩舎



ご存知ですか？

1. 軽種馬生産育成強化対策事業 (利子補給事業)

この事業制度は

当協会が、財団法人全国競馬・畜産振興会の助成を受け、競走馬育成協会の会員を対象に、軽種馬の育成に係る施設、機械、草地等の経営環境の整備・改善に必要な低利資金を融通する融資機関に対し、利子補給を行い、軽種馬経営の強化安定に資するために行う制度です。

対象者は

当協会の会員であり、下記①から③の要件全てに該当し、軽種馬生産育成強化資金利子補給事業実施要綱に定める強化計画について、協会会長の承認を受けた者です。

- ① 長期的に軽種馬経営の改善に取り組む意欲が旺盛であり、かつ、経営管理能力を有すると見込まれること。
- ② 現に軽種馬経営に従事しているものが60歳未満であるか、軽種馬経営に従事している者が60歳以上である場合にあっては、原則として後継者が確定していること。
- ③ 仔分馬又は預託馬を飼養する経営体にあつては、仔分馬又は預託に係る対等な管理契約を締結している者であること。

貸付対象は次の3種類です

- ① 生産育成施設整備資金
厩舎、馬場（屋内運動場を含む。）、放牧柵（パドックを含む。）その他協会が、財団法人全国競馬・畜産振興会と協議して必要と認める生産育成施設の改良、造成又は取得に必要な資金
- ② 生産育成機械等取得資金
牧草等収穫調製用機械、農用地改良造成用

機械、運搬用機械（馬運車を含む。）、糞尿処理施設等環境汚染防止施設、その他協会が財団法人全国競馬・畜産振興会と協議して必要と認める生産育成用機械の改良、造成又は取得に必要な資金

③ 草地更新等整備資金

草地更新等整備に必要な資金であつて、協会が財団法人全国競馬・畜産振興会と協議して定める資金

利用希望がある会員の方は、ご相談に応じますのでご連絡ください。

2. 畜産環境整備リース事業

この事業制度は

当協会が、「家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律」の施行に伴い、諸規制に対応した家畜排せつ物処理等機械施設の整備等の会員の投資負担の軽減に資するためのリース事業です。

リース事業の内容

- ① 保証人を求めない債権保証保険制度を採用
- ② 処理機械は損害保険に加入
- ③ 貸付期間は処理機械の法定耐用年数の0.6～0.7掛けの期間
- ④ 附加貸付料（金利相当額）は制度資金の金利水準

平成14年の事業開始以来、4件（トラクター、フロントローダー、モア、堆肥舎）の利用があります。

利用希望がある会員の方は、ご相談に応じますのでご連絡ください。

競走馬育成協会人事

平成20年1月1日付のJRA人事異動で、田村正和総務部長が退任し、同日付で後任に玉村泰弘が就任しました。



玉村 泰弘 総務部長

いくせい

2008 46号

発行日 平成20年9月30日
発行 社団法人 競走馬育成協会
〒105-0003 東京都港区西新橋1-1-19
日本中央競馬会本部ビル5階
TEL. 03(3501)4771(代) FAX. 03(3501)4772
編集責任者 赤塚洋文
制作・印刷 西谷印刷株式会社

